

専門分野Ⅱ

23単位 (600時間)

<ねらい>

- 人間が誕生し成長・発達を遂げ人生を全うする過程における特徴と健康な生活について学ぶ。
- 特に、各発達段階におけるセルフケア支援とよりよい生活について考える。
- 各発達段階において多様な健康課題を有する対象に、科学的根拠に基づき看護実践ができる基礎的能力を養う。
- 人間のもつ機能と能力を障害・喪失することで生じる様々な影響を理解し、その人がその人らしく生活することについて考える。
- 人生の終焉にあるひとと取り巻く人々へ対する看護を学ぶ。
- 対象に共感しながら寄り添う姿勢を養う。

<構成>

教育内容	科目	単位	時間数
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	呼吸と循環の看護	1	30
	栄養と代謝の看護	1	30
	内部環境の看護	1	30
	認知と運動の看護	1	30
	周手術期の看護	1	15
	人生の終焉の看護	1/7	15/180
老年看護学	老年看護学概論	1	30
	高齢者の生活支援	1	30
	健康障害をもつ高齢者の看護	1	30
	老年看護過程	1/4	15/105
小児看護学	小児看護学概論	1	15
	成長・発達への支援	1	30
	小児臨床看護論	1	30
	健康障害のある小児の看護	1/4	30/105
母性看護学	母性看護学概論	1	30
	妊婦と産婦の看護	1	30
	褥婦と新生児の看護母性看護過程	1	30
	ウィメンズヘルス	1/4	15/105
精神看護学	精神看護学概論	1	30
	精神の健康を守る看護	1	15
	精神症状のある人への看護	1	30
	精神機能に障害のある人への社会支援	1/4	30/105
合計		23	600

成人看護学

7単位（180時間）

<ねらい>

成人期は、青年期、壮年期、向老期と人生の大半の時期をさす。自我が確立され、より良い健康を育むための意図的行動であるセルフケアを遂行できる存在で、中心概念は「成熟」である。社会や環境との関わりの中で日々の生活を営み、自らの意思決定による判断と責任で行動する。社会的役割や責任が大きい成人の健康課題はストレスやライフスタイルと密接に関係している。また、加齢に伴う心身の機能の変化も関与する。

人間の生活の基盤となる身体は、細胞を中心に、内部環境調節機能・呼吸循環機能・栄養代謝機能・運動機能・認知・コミュニケーション機能・性生殖機能・精神機能が関与しあって構成されている。これらの機能が障害されると、生命の危険・苦痛、悪化と再発の危機、治療、生活障害からの影響を引き起こす。

成人看護学では、対象の健康の保持増進・機能障害からの回復を目指し、その人がその人らしく生活できるセルフケアアプローチを学習する。また、人生の終焉にある対象への全人的苦痛に寄り添い、看護の役割を考える機会とする。

<目的>

成人期にある対象の特徴を理解し、健康の保持増進および健康障害時の看護を学ぶ。

<目標>

1. 成人期にある対象の特徴と健康課題を理解する。
2. 対象の健康保持・増進および機能障害からの回復を促す看護を理解する。
3. 人生の終焉にある対象への看護の役割を理解する。

<構成>

教育内容	科目	単位	時間数
成人看護学	成人看護学概論	1	30
	呼吸と循環の看護	1	30
	栄養と代謝の看護	1	30
	内部環境の看護	1	30
	認知と運動の看護	1	30
	周手術期の看護	1	15
	人生の終焉の看護	1	15
	合計		7

授業科目名	成人看護学概論			担当教員	丸山 修義		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	1年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から慢性期病棟で成人期から老年期までの看護を経験。成人期の健康問題における疾患に対して、患者・家族を対象として入院中から退院後の生活までを含めた看護を実践していた。	実際にあった患者・家族の事例を用いながら、現代の成人の生活や健康問題について授業展開していく。また、事例を通して看護の意味を考えることで、理論について理解を深めていく。

授業のねらい・概要
1.ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2.成人の健康生活の保持増進と疾病予防のための看護を理解する。 3.健康状態に応じたセルフケアアプローチに必要な基礎知識・技術・態度を理解する。 4.成人を対象とする保健・医療・福祉システムについて理解する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	成人の生活の特徴	講義	
2	職業性疾病と生活習慣病および対策	講義	
3	成人への看護アプローチ(1) ヘルスプロモーション/大人の学習	講義	
4	成人への看護アプローチ(2) 倫理的判断と意思決定支援	講義/演習	
5	成人への看護アプローチ(3) 成人期のストレスの特徴と看護	講義	
6	成人への看護アプローチ(4) セルフマネジメント/エンパワメント	講義/演習	
7	退院におけるチームアプローチと看護師の役割	講義	
8	症状マネジメントと看護	講義	
9	急激な破綻から回復を促す援助(1)	講義	
10	急激な破綻から回復を促す援助(2)	講義/演習	
11	障害がある人の生活とリハビリテーション	講義	
12	慢性的な揺らぎの再調整を促す看護(1) 病みの軌跡とセルフケア	講義	
13	慢性的な揺らぎの再調整を促す看護(2) 病みの軌跡とセルフケア	講義/演習	
14	人生の最期のときを支える看護	講義	
15	成人の身体的・精神的・社会的特徴	講義/演習	

使用教科書・教材・参考書
成人看護学総論 医学書院 国民衛生の動向

成績評価の方法
筆記試験100点

備考

授業科目名	呼吸と循環の看護			担当教員	丸山 修義 山角 裕美		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
急性期から慢性期病棟で成人期にある対象の看護を経験。手術療法・化学療法・放射線療法を受ける患者や家族に対しての看護、退院や転院の支援などの看護を実践している。	病棟での実務経験をを活かし、成人期の健康障害をアセスメントし実施評価する過程について実践的な事例を含めた講義と看護実践方法を学ぶ。

授業のねらい・概要
1. 生命の危機状態から回復過程にある対象の看護を理解する。 2. 呼吸・循環機能障害による生命の危機と苦痛に対する看護を理解する。 3. 機能障害からの回復を促し、生活障害の拡大を防ぐ看護を理解する。 4. 事例を通し、生命に対する強い不安・恐怖に対するアプローチを学ぶ。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	呼吸不全の症状の観察とアセスメント 日常生活への影響	講義	気管～肺の構造と機能
2	呼吸機能障害のある患者の検査や治療の看護	講義	
3	拘束性換気障害・閉塞性換気障害のある患者の看護(1) COPD患者のアセスメント(急性増悪～回復期)	講義/演習	COPDの病態
4	拘束性換気障害・閉塞性換気障害のある患者の看護(2) COPD患者の援助計画立案・発表	講義/演習	
5	侵襲的治療を受ける患者の看護(1) 肺がん術後の看護(急性期)	講義/演習	肺がんの病態
6	侵襲的治療を受ける患者の看護(2) 肺がんの治療と看護(慢性期)	講義	
7	感染症・気道疾患のある患者の看護	講義/演習	
8	心ポンプ機能障害・輸送還流障害のある患者の症状と看護	講義	
9	心ポンプ機能障害のある患者の看護(1)	講義/演習	心不全の病態
10	心ポンプ機能障害のある患者の看護(2)	講義/演習	
11	心ポンプ機能障害のある患者の看護(3)	講義/演習	
12	心ポンプ機能障害のある患者の看護(4)	実技演習	
13	心ポンプ機能障害のある患者の看護(5)	講義/演習	
14	心ポンプ機能障害・輸送還流障害のある患者の看護の実際	講義	
15	刺激伝導障害のある患者のアセスメントと看護	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院

成績評価の方法
筆記試験90点、演習10点

備考

授業科目名	栄養と代謝の看護			担当教員	山角 裕美		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病棟看護師として実務経験を有し、成人期における周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援などの看護を実践している。	病棟での看護実践を踏まえ、栄養と代謝機能に障害のある看護について、疾患や障害の事例を用い、患者の理解につながる内容とする。また画像や実物を使用しながら、具体的なイメージを持って学べるように病院での臨床経験をふまえて講義する。

授業のねらい・概要
1. 栄養摂取・代謝機能障害をきたした対象への回復と生活の再調整を促す看護を理解する。 2. 事例を通し、身体的・心理的・社会的特徴を理解した対象・家族への援助を考えることができる。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	摂食・通過障害のある患者の看護(1) 症状に伴う看護 検査や治療を受ける患者の看護	講義/演習	
2	摂食・通過障害のある患者の看護 (2) 食道がんの患者の看護	講義	食道の機能と構造
3	吸収・排泄機能障害のある患者の看護(1) 人工肛門造設術前後のアセスメントと看護 障害受容過程	講義/演習	小腸～肛門の機能と構造
4	吸収・排泄機能障害のある患者の看護 (2) 人工肛門造設術後の患者の生活指導	実技演習	
5	吸収・排泄機能障害のある患者の看護 (3) 継続看護と社会資源の活用	講義	
6	消化機能障害のある患者の看護(1) 胃・十二指腸疾患の患者のアセスメントと看護	講義	胃・十二指腸の機能と構造
7	消化機能障害のある患者の看護 (2) 術後合併症の予防と早期発見への看護	講義/演習	
8	消化機能障害のある患者の看護 (3) 難治性疾患患者の生活調整への支援	講義	
9	膵臓機能障害のある患者の看護 (1) 出現しやすい症状と看護	講義	膵臓の機能と構造
10	膵臓機能障害のある患者の看護 (2) 膵炎患者のアセスメントと看護	講義	
11	胆道・胆嚢機能障害のある患者の看護 胆道系疾患のある患者のアセスメントと看護	講義	胆道系の機能と構造
12	肝臓機能障害のある患者の看護 (1) 肝炎患者のアセスメントと看護	講義	肝臓の機能と構造
13	肝臓機能障害のある患者の看護 (2) 肝硬変症患者に出現しやすい症状と看護	講義	
14	肝臓機能障害のある患者の看護 (3) 肝硬変症患者のアセスメントと看護	講義	
15	肝臓機能障害のある患者の看護 (4) 病みの軌跡	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学 成人看護学[5] 消化器 医学書院 系統看護学 臨床外科看護総論 医学書院

成績評価の方法
筆記試験90点、演習10点

備考

授業科目名	内部環境の看護			担当教員	岡田 一生 山角 裕美		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
内科病棟では、生活習慣病(糖尿病)から合併症である腎障害による透析患者との看護を実践している。また造血機能障害患者に対しては、化学療法や輸血療法を受ける患者や家族の関わりを含めた看護を実践していた。	内科病棟での看護実践をふまえ、内部環境調節機能の看護について臨床における疾患や障害の事例を用い、患者の理解につながる内容とする。また画像や実物を使用し、具体的なイメージを持って学べるように病院での臨床経験を踏まえて講義する。

授業のねらい・概要
1. 内部環境の調整を必要とする対象の特徴と看護を理解する。 2. セルフケアに向けた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。 3. 事例を通して対象の苦痛を理解し、自己効力感を高めるための援助を理解する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	糖代謝異常のある対象の看護(1) 原因とアセスメント	講義	
2	糖代謝異常のある対象の看護(2) 検査と治療	講義	
3	糖代謝異常のある対象の看護(3) セルフケアを支援する看護	講義	
4	糖代謝異常のある対象の看護(4) 糖代謝機能障害を持ちながら生活する人の看護	講義	
5	糖代謝異常のある対象の看護(5) 自己血糖測定/インスリン注射	講義/演習	
6	甲状腺機能に異常がある対象の看護(1) 検査と治療	講義	
7	甲状腺機能に異常がある対象の看護(2) 甲状腺機能障害を持ちながら生活する人の看護	講義	
8	腎・泌尿器の機能障害に応じた看護(1) 検査と症状の看護	講義	
9	腎・泌尿器の機能障害に応じた看護(2) 腎・泌尿器の機能障害の看護	講義	
10	腎臓の働きと透析の原理/透析中の看護	講義	
11	血液透析を受ける対象の看護(1) 導入期のセルフマネジメント	講義/演習	
12	血液透析を受ける対象の看護(2) 保存期から維持期のセルフマネジメント	講義/演習	
13	造血機能障害の看護(1) 主要症状と検査時の看護	講義	
14	造血機能障害の看護(2) 病期に応じた看護	講義	
15	免疫不全のある対象の看護	講義	

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[6]内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考

授業科目名	認知と運動の看護			担当教員	岡田 一生		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 30時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
病棟看護師として実務経験を有し、成人期における周手術期から回復期・終末期の看護を経験。手術療法・化学療法や退院・転院支援などの看護を実践している。	認知と運動に障害のある患者の身体的・心理社会的側面に及ぼす影響をとらえた看護過程を展開する。学生が術前・術後の患者を具体的にイメージでき、興味が持てるように臨床で経験したエピソードや、合併症の実例などを交えながら講義を展開する。

授業のねらい・概要

- 1.運動機能障害による生活障害に対する看護を理解する。
- 2.中枢神経障害による生命の危険と苦痛に対する看護に必要な知識・技術・態度を理解する。

授業内容および方法

回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	脳・神経障害のある患者の看護 解剖生理・フィジカルイグザミネーション	講義/演習	
2	脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響 症状と看護	講義	
3	検査と治療を受ける患者の看護	講義	
4	高次脳機能障害のある対象の看護	講義/演習	
5	脳血管障害のある患者のアセスメント 病態からのアセスメント	講義	
6	脳血管障害のある患者の生活支援	講義	
7	脳血管障害のある患者の看護	実技演習	
8	中枢神経障害の損傷に応じた看護 ボディイメージの変容に対する看護	講義	
9	身体を支持する機能障害のある対象への看護(1) アセスメントの視点	講義/演習	
10	身体を支持する機能障害のある対象への看護(2) 解剖生理と病態 固定・牽引時の看護	講義	
11	身体を支持する機能障害のある対象への看護(3) 日常生活支援の看護	講義/演習	
12	身体を支持する機能障害のある対象への看護(4) 手術後の経過に合わせた看護(THA術後の禁忌肢位など)	実技演習	
13	関節に運動機能障害がある対象への看護(1) 拘縮・硬直・変形	講義	
14	関節に運動機能障害がある対象への看護(2) 日常生活支援の看護	実技演習	
15	身体を動かす機能障害のある対象への看護 脊髄損傷レベルに応じた生活支援	講義	

使用教科書・教材・参考書

系統別看護学講座 成人看護学〔7〕脳・神経 医学書院
 系統別看護学講座 成人看護学〔10〕運動器 医学書院
 系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

成績評価の方法

筆記試験90点 演習10点

備考

授業科目名	周手術期の看護			担当教員	下瀬 尚美 根本 雅子		
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
集中治療室、急性期病棟での実務経験を有し、患者・家族を対象に術前から術後、退院支援の看護を実践していた。	臨床での経験をふまえた事例を用いて、周手術期における患者・家族の状況がイメージしやすいようにし、必要な看護を学習していけるよう授業展開をしていく。また、ドレーンなどは実物や画像を使用し、理解が深まるようにする。

授業のねらい・概要
1.周手術過程にある対象の特徴を理解する。 2.周手術過程に応じた看護に必要な知識・技術・態度を理解する。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	周手術期にある対象の特徴と意思決定支援	講義	侵襲に対する神経・内分泌反応
2	手術中の看護 麻酔導入までの看護師の役割、身体への影響、手術体位	講義	
3	手術後の看護(1) 麻酔による身体の影響と手術侵襲と生体の反応	講義/演習	
4	手術後の看護(2) 術後合併症アセスメント	講義/実技演習	
5	手術後の看護(3) 創傷/ドレーン管理/術後疼痛の管理	講義/実技演習	
6	手術後の看護(4) 回復を促進するための看護	講義/演習	
7	手術前の看護 術前訓練とリスクアセスメント	講義/演習	
8	周手術期の看護の概論 今日の外科看護の特徴と課題	講義	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論

成績評価の方法
筆記試験90点 演習10点

備考

授業科目名	人生の終焉の看護			担当教員	桐山 徹	小泉 純子	目黒 由夏
分野	専門分野Ⅱ	教育内容	成人看護学	総単位 時間数	1単位 15時間	年次	2年次

実務経験のある教員による授業科目	
実務経験の概要	実務経験と授業科目との関連性
緩和ケア病棟で、成人から老年期にある対象とその家族に対して、薬物療法や放射線療法などにより心理・社会・スピリチュアルケアなど包括的な看護を実践している。	病棟での実務経験のある認定看護師がその経験を活かして終末期の看護について授業を行う。

授業のねらい・概要
1. 人生の終焉にある対象の全人的苦痛に寄り添う姿勢を養う。 2. 人生の終焉にある対象の全人的苦痛を緩和する方法を理解する。 3. 家族への支援とグリーフケアについて理解する。 4. 自己の死生観を養う。

授業内容および方法			
回数	授業内容	授業方法	授業までに準備しておくこと
1	緩和ケアの歴史と現状 緩和ケアにおける看護介入の特徴/意思決定を支えるケア	講義	
2	主要な身体症状のマネジメントとケア 生活を整える援助	講義	
3	社会的苦痛へのケア 家族を支える看護	講義	
4	スピリチュアルペインのケア	講義	
5	看取りの看護/エンゼルケア	講義	
6	化学療法を受ける患者の看護	講義	
7	放射線療法を受ける患者の看護	講義	
8	人生の終焉の看護における倫理について 自己の死生観について	演習	
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用教科書・教材・参考書
系統看護学講座 別巻 緩和ケア 医学書院

成績評価の方法
筆記試験100点

備考